

今こそ登録と検定、審査、SNP情報活用して、健康で長命連産、生涯生産能力の向上を!!

(一社)日本ホルタイン登録協会 中六角 保広

申し上げます。

日本ホルスタイン登録協会 賛助会員の皆様、改めてご挨拶申し上げます。私は6月19日に開催しました第76回通常総会並びに第336回理事会において、会長の大役を仰せつかりました中六角保広(なかくわ ほうこう)と申します。前田勉前会長の後任として、その職責の重さに身の引き締まる思いでございます。今後登録事業を通じて、ホルスタインの泌乳能力、体型的改良を推進し、安定的な酪農経営の向上に貢献したいと考えておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

日頃より当協会と酪農関係者の皆様には、ホルスタイン種登録事業の推進に対して多大のご理解とご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。また、多くの社員並びに農林水産省をはじめ中央関係団体から来賓を迎えて、第76回通常総会を開催することができましたことに、重ねてお礼申し上げます。

登録数にも当然、大きなマナスの原因になっている。登録情報活用システム(RIUS)の提供、SNP検査農家は、ゲノミック情報利用システム(Genius)等の情報還元の充実、努めていきます。

また、本年度から新たに、日本中央競馬会の畜産振興事業「乳牛の近交係数対策研究事業」を5年間実施して、ゲノム情報を活用した近交係数の推定と10頭の農業共済組合からの疾病記録データを用いて、疾病と近交係数の推定、近交係数昇速度の抑制の効率的な方法の確立等を進めてまいります。



新任の挨拶で抱負を述べる中六角新会長

退任挨拶

(一社)日本ホルタイン登録協会 前田 勉 前会長

6月19日に開催しました第76回通常総会をもって、私は日本ホルスタイン登録協会の会長職を退任することになりました。近年、酪農情勢は飼料、価格の高騰や後継者不足、並びに関係団体の皆様から多大なるご支援とご協力を賜りましたことを紙面を借りて心より御礼申し上げます。

平成28年の会長就任以来、念頭に置き続けてきたのは「正しい血統登録」である。乳牛改良の基本は、血統登録の推進、ゲノミック評価の現場への還元など、時代に即した変革を、皆様とともに歩めることが、大変感慨深いものがございます。



前田前会長



第16回全共(令和7年10月)

第16回全共がこれほど大成功を収めることができたのは、長い間、本当にありがとうございました。

就任挨拶

(一社)日本ホルタイン登録協会 山野 淳一 専務理事

このたび6月19日第76回通常総会、第336回理事会で栗田前専務の後任として新たに専務理事に選任されました山野淳一(やまのじゅんいち)と申します。平成3年麻布大学獣医学部獣医学科を卒業、農林水産省に入省し、本年3月末に35年勤めた農林水産省を定年退職しました。

私は兵庫県西宮市出身で、実家は、甲子園球場の近くです。そのこともあり、趣味はスポーツ観戦で、特に野球、ラグビーが大好きです。また、退職を機に、体力作りが診療義務、2回目は牧場を、その後は、宮内庁御料牧場も勤めました。血統登録、体型審査は、今までは申請をする側でしたが、これから乳牛改良の基礎を受け持つこととなり、感慨深々感じています。

改めて言うまでもなく、酪農界は、不安定な中東情勢、円安、不安定に起因する資材、食料、飼料の高騰、牛乳供給の緩和と課題が山積しています。このような中、これから乳牛改良の基礎となるデータを収集し、改良による酪農経済に資すること、に身を引き締めます。

経験としては家畜改良センター、若手牧場を2回経験し、若手の時は、主に診療義務、2回目は牧場を、その後は、宮内庁御料牧場も勤めました。血統登録、体型審査は、今までは申請をする側でしたが、これから乳牛改良の基礎を受け持つこととなり、感慨深々感じています。

本年6月の通常総会をもって専務理事を退任しました。日本ホルスタイン登録協会、国をはじめ酪農関係団体、そして日本役職員の皆様には、長年にわたって沢山の指導とご親交を賜り、深くお礼を申し上げます。

1976年春、帯広畜産大学を卒業して日本に入社してから50年の月日が過ぎました。今、振り返りますと、色々な出来事が起ります。紙面を借りて、印象的な出来事を書き留めたいと思います。

北海道で指導立会審査の基本理念を得る

入社して3年目の78年には北海道支局に1年間出向し、当時の北乳検(現北酪検)との指導立会で、1年間に約1000戸の検定農家を地元の検定指導員と一緒に立会しました。

初回の訪問先「ロングビーチ」長浜久牧場では、早朝の検定立会前の牛舎で、当時活躍中の名種雄牛「フティ・アイ」の娘牛を数頭見せられ、「搾れる牛は、中継が長く、乳房も前方に長く付着した牛」と教えられました。この経験

82年秋には、静岡県富士開拓の佐々木牧場で、国内初の牛群審査をスタートし、ドリーナ誌にも大きく取り上げられました。審査方法がそれまでの高等登録審査とは大きく異なり、審査委員が牛舎に入り測定を廃止し、決定得点も1点のみ、審査の寸評と登録書への得点押印等に、当初は驚き戸惑う農家と関係者も少なくありませんでした。

84年には北海道を含む全国実施へ、80年から線形審査法の導入と90年から審査用ハンディを採用し、98年からは携掛プリンターによる打出しを開始しました。牛群審査がなかったら、88年からの後代検定型調査もできなかったのではと回顧しています。

94年4月から、体型審査委員としての2年間で46都府県315回の審査出張、シャギー種を含めて6万3千頭強を審査させていただきました。デビュー戦の石川県審査は最多となる800名が参加して賑わいました。しばらく時が経ち、03年にカナダ、07年にイタリアで開催された世界畜産委員会ワークショップには北海道支局の神保、戸田、佐藤審査委員とともに出席し、国際的な審査の目合わせと、イタリアでは日本の体型審査の概況を英語で発表されました。4年毎に開催される世界会議に計5回、連盟の評議員会にもアジア代表として7回出席しました。今や世界は、泌乳能力や体型的改良ではなく、疾病や遺伝的多様性、環境適応性、大規模データ利用と所有権等への関心が高いことを痛感しました。

岡山山共では、副審査委員も

最後に、この50年間は本当に多くの方々にお世話になりました。日本支局の諸先輩は勿論ですが、特に、前田勉前会長、清水健一前会長、前組合長、鈴木三義前会長、大森前会長、三國貴全国酪農協会前常務、北海道支局の根合智史支局長、河原幸吉氏(故人)、日本秋田県支局の佐藤篤右前常務、旧鹿角島県酪連の丸目多喜男元部長(故人)には大変お世話になりました。心より感謝とお礼を込めて、退任のご挨拶とします。

今後の行事

日本ホル協

- ◎中部・北陸地区 7月16・17日(福井県)
- ◎近畿地区 7月23・24日(京都府)
- ◎中国・四国地区 8月6・7日(鳥取県)
- ◎九州地区 7月30・31日(熊本県)
- ◎関東地区 8月21日(日本会議室、事務担当 者会議のみ)
- ◎東北地区 7月27・28日(福島県)
- ◎地区別登録委員研修会・夏期登録事務担当者会
- ◎中央審査研究会 9月16・18日、酪農学園大学付属農場

職員募集

〇採用 1名
〇応募資格 酪農関係業務に概ね10年以上従事し、乳牛改良に対する知識がある方。
〇募集職種と仕事内容 乳牛の登録ほか当協会が行う業務全般。数年以内に都府県における体型審査業務(年間延べ120日程度の出張)に従事する。
〇待遇 勤務時間 9:00~17:00(仕事の性質上、時間外勤務や休日出勤あり) 休日 完全週休二日制(土・日)、祝日及び、夏季・年末年始・有給休暇あり

事故のあとの補償。損害保険はそれだけではいけない。そう考えるあいおいニッセイ同和損保は、いち早くテレマティクス技術を活用し損害保険を「事故を起こさない保険」へと進化させました。

そして今、これまでの保険の枠を超えた新しい価値を提供するために、国内外のあらゆる事業を通じ、社会・地域課題の解決にチャレンジしていきます。

そのためのキーワードは、ともに。

お客さまとともに、そして地域・社会のみならずとも、日常や事業にひそむ様々なリスクを削減し、万が一の場合には、被害の軽減と早期回復を支援していきます。

そこに、国内外のパートナーと協業し、最先端のデジタル技術やビッグデータを掛け合わせれば、新しい社会を創り出すことができます。

それは、リスクに應ずることのない、安全・安心で快適な社会。お客さまと地域と社会と私たちが思いをひとつにできれば、夢なんかではない。私たちはそう信じています。

そんな思いを、CSV×DXと名付けました。

あいおいニッセイ同和損保は、CSV×DXを通じて、お客さま・地域・社会の未来を支えつづけます。

あいおいニッセイ同和損保

MS&AD INSURANCE GROUP

公式HPはこちら



あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 東京都渋谷区恵比寿1丁目28-1
https://www.aioinissaidowa.co.jp/

まだ誰も知らない
安心を、ともに。

